

国際理解展示会 (Peace for Tomorrow)

～SDGsの実現に向けて国際理解を深めよう～

国際理解バス部長 中島千恵美

2年にわたる新型コロナウイルス感染症は、私たちに新しい生活様式を余儀なくさせています。これまで楽しみにしていた行事や会合が開催できなくなり、主催者は頭を悩ませたに違いありません。高崎ニ協の恒例事業「国際理解バス」も、2年間実施できず、残念至極でした。

しかし、私たちは、年月の流れの中で「それなりの生活」をし、自分にできる「感染しない術」を身につけ始めています。国際理解バスもこのような変化の中で、今できる国際教育をやってみようという提案をし、役員会議で協議の末、8月21日(土)に実施する運びとなりました。ところが緊急事態宣言が発表され、またもや中止せざるを得なくなりました。事前の話し合いを重ねたので、ここで終わらせたくないという思いが役員の胸を過ぎり、協議の結果、10月30日(土)まで延期といたしました。その間、防犯・青少年課のご支援もあり小・中学校へ案内を出すことができました。

実施に際してはコロナ禍ゆえに様々な意見が出ました。一例を挙げると、

- 1 学校へ案内文を出して、参加表を集約するのか。・・・集約しないで自由参加とする。
- 2 受付での対応はどうするか。・・・出品をしない役員有志で賄う。当日は、学生ボランティアが3人と市教委の防犯・青少年課のインターンシップの方々が参加してくださった。
- 3 役員以外の出品者にどのように依頼するのか。・・・電話と郵便で内容を周知する。
- 4 中央公民館集会ホールの展示のレイアウトをどのようにするか。
・・・防犯・青少年課担当が作成。
- 5 POPは誰が用意するのか。・・・個々のテーブル上は国際理解バス部が用意し、他は防犯・青少年課が準備。
- 6 展示板は何枚必要か。・・・計画では6枚だったが、足らず補充した。
- 7 リハーサルが必要ではないか。・・・出品者各自が役員会の時に持ち寄り、2回に分けて説明会を行った。
- 8 出品物の扱い、保険などはかけられないので自己責任としたい。
・・・出品者全員快諾。
- 9 参加役員に限りがあるので、段取りよく準備を進める必要があるので一表が必要ではないか。・・・防犯・青少年課担当がきめ細かく作成し全員に周知した。 等々



今年初めて行う国際理解展示会にワクワクしながら望みました。話し合いを進めていくと、新たな発見や思いがどんどん膨らんで、当初の申告した出品物よりも多くなっていきました。が、今回の催しは国際理解バスの代替として提案し実施することになったので、堅苦しい枠はずして「みんなが楽しく平和を語り合い、世界に目を向けよう、SDGsを考えよう！」など、一人一人が自分の思いで展示し、来場者の一人でも多くの方々に世界に目を向けていただき、

これまで知らなかった世界を楽しんでいただければとの思いで進んでいきました。参加者は全員 17 色の SDG s バッジを胸に付けて。

コロナ禍で会場を借りる場面で、注意を払うことが多く出てきましたが、みんなで知恵を出し合えば

困難も乗り越えられるという実感も生まれました。他市では公民館を閉鎖していると聞きましたが、高崎市は十分に注意を払えば使用できました。集会ホールと視聴覚集会室を貸し出していただいたことには本当に感謝しています。この困難な環境の中で最善の方法を編み出すことは、これまでにない経験でもありました。

学生ボランティアとの関わりもユネスコ協会の大きな柱です。これまで高崎経済大学、高崎商科大学、高崎健康福祉大学の学生有志が児童画展やユネスコキャン

プなどの通年事業に参加してくださっていました。しかし、今回は年間計画に掲載されていない事業だ



ったにも関わらず、大学の掲示板を見て参加してくださった学生もいて、幸せな気持ちになりました。聞くところによると「コロナ禍で何かをしなくては・・・。」という自分の気持とユネスコ協会のボランティア募集の内容が一致したとのこと。他の人のために何か無償でお手伝いをしようという心根に参会者はみな感動しました。

コロナ禍であっても、子どもたちのために何かできることはないか意見を重ねて行った結果、自分たちが楽しい気持ちで取り組めば「何かできる」と実感したことが、今回の展示会で得たことでした。

視聴覚
集会室



アルパ演奏



海外児童の作品



世界のコイン

消毒にはじまり消毒に終わるような施設の使い方にも慣れ、また、公民館のスタッフの皆様も消毒を徹底してくださり、安心して会場を借りて、事業に向かう事ができました。

反省として、準備が万全だっただけに、来場者が少なく残念だったということです。このことを踏まえて、国際理解バスの代替ではじめた「Peace for Tomorrow～SDGsの実現に向けて国際理解を深めよう～」を今年限りの事業で終わらせず、毎年の事業の一つに取り上げたら、児童生徒のみならず一般市民にもSDGsのことを広げられると思いました。

また、参加者から、来場者を増やす方法として、展示と同時に海外の物品の即売（募金箱に希望金額を入れていただく）をするという案が出ました。子どもも大人も楽しめる国際理解展示会を広めることによって、市民がSDGsの目標達成を意識し、高崎ユネスコ協会が率先して2030年までに今より前進できるように取り組んでいくことが肝要ではないかと話し合いました。